

背伸びしすぎず、ありのままの自分でいられる松山

私にとって松山は“居場所”の一つです。

1993年小学5年生から5年間で松山で過ごしましたが、その時の御縁としての繋がりが今もあります。小学校時代の恩師とは卒業後、賀状のやり取りのみでしたが、子育ての悩みをふと書いた返信として、みかんと素敵な言葉の贈り物をいただきました。30年の時を越えて心温まる想いでいっぱいになりました。また、中学校時代に姉妹都市サクラメントに海外派遣に行った際、同級生とSNSで繋がり、彼の働いている佐賀大学で講義に登壇させていただきました。こちら長い時を越えて嬉しい松山の交友が佐賀で実現しました。

一方で、近くに住んでいなくても温かく迎えてくれる雰囲気は松山にはあります。中学卒業後、旅行以外に関わりがなく縁遠くなっていましたが、コロナ禍を契機にだんだん複業団という松山のコミュニティに加えてもらい、松山市内企業の伴走もさせていただいています。

このように松山は街そのものも風情がありますが、松山という言葉で集まる“人”こそが素敵な“居場所”だと感じています。長く付き合っていきたいと思わせる、そして背伸びしすぎず、ありのままにいられる、そんな素敵で大好きな場所です。



昔から繋がる御縁



近年で繋がる御縁



EDITOR

田村 和久

KAZUHISA TAMURA

#ありのまま #共感と好奇心 #境界線を溶かす